

1. 評価結果概要表

〔認知症対応型共同生活介護用〕

平成 21年 9月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503528		
法人名	合資会社オープンハート		
事業所名	グループホーム美優平岸		
所在地	〒062-0932 札幌市豊平区平岸2条5丁目1-1 第2柳田ビル1階 (電話) 011-831-3700		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年8月5日	評価確定日	平成21年9月23日

【情報提供票より】（平成21年7月10日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.1人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	4 階建ての	～	1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	40,000～55,000 円 (生活保護36,000円)		
その他の経費（月額）	光熱費 20,000円 暖房費10,000円（11月～3月）		
敷 金	有（ 円） (無)		
保証金の有無 （入居一時金含む）	(有) (110,000円) (生活保護108,000円)	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要（ 7月13日現在 ）

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護 1	名	要介護 2	2 名
要介護 3	4 名	要介護 4	3 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 84.8 歳	最低 78 歳	最高 91 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	小笠原医院・三浦循環器科内科・ごう在宅クリニック・高台病院・ライラック病院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設4年目を迎えている事業所は、理念である「日々の暮らしの中でその人らしくいつまでも尊厳のある心豊かなで安らかな生活を目指します」をモットーに、利用者一人ひとりの個性を大切にしたり暮らしを提供している。利用者が活き活きした表情で率先して食事の準備をしたり、和やかな食卓を囲む雰囲気はその暮らしぶりを象徴している。さらに地域の人々との交流を積極的に行い、イベント参加や外出などが暮らしの豊かさに繋がっている。運営者は健康面への配慮も徹底して実践しており風邪をひく方はほとんどいない状況である。また、職員教育を重視し、事業所独自で人材を育成する研修プログラムを開発し、スキルアップに繋げている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回の評価で、改善課題は挙げられていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 評価の意義は運営者は基より、全職員が理解し、各自自己評価シートの記入と会議での協議を行っている。外部評価の結果を取り入れ具体的な対策に繋げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議には、町内会役員3名、利用者、家族、包括支援センター職員等が参加している。活動報告に留まらず、事業所は町内会へ町内会は事業所へと、相互の行事に参加したり、包括支援センター職員によるインフルエンザに関する研修などを開催し時期や状況にタイムリー対応する活動内容を協議しながら実践している
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族には、面会時・電話の際や行事参加時など、いつでも気軽に意見や相談をしてもらえるような関係づくりのための声かけを日常的に行っている。さらに利用者の介護計画書とモニタリングを毎月送付し、家族の希望や意向を聞く機会を積極的にもっている。事業所の内部、外部に苦情相談機関を設置し対応体制を整えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 町内会役員の積極的な協力があり、入居者が町内会の活動（花植え、ゴミ拾い、日帰り温泉旅行等）に参加したり、地域のサークルメンバーとの交流などが行われている。また、町内会役員が事業所の防災訓練に参加するなど、利用者が安心して暮らし続けるための関係構築が着実に出来てきている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念に加えて地域との交流を重視した地域密着型サービスとしての理念を、事業所独自で創りあげ日々のサービス提供の中で実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時研修には、理念を伝えるためのロールプレイなどを取り入れ、職員全員が参加し、組織の一員としての自覚とプロ意識を育成すると共に、職員が常に理念を共有できるよう教育を徹底している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議には、町内会役員に参加してもらい施設を案内をしたり、町内会の活動（花植え、ゴミ拾い、日帰り温泉旅行等）に参加している。また地域のサークル活動メンバーの訪問を受けるなど、積極的に地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は運営者は基より、全職員が理解し、各自自己評価シートの記入と会議での協議を行っている。外部評価の結果を取り入れ具体的な対策に繋げている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、町内会役員3名、利用者、家族、包括支援センター職員等が参加している。活動報告に留まらず、行事参加やインフルエンザに関する研修など時期や状況に対応する活動内容を協議しながら実践している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の担当者とは、入居に関する連携や運営に関する指導・助言を得ている。また会議などの機会を利用し、事業所の実情を伝えるなどの情報交換や対応への協力を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、来訪時や電話の際に報告している。さらに利用者の介護計画書とモニタリングを毎月送付し、家族の要望を聞き、見直しをしている。また事業所便りを発信して、利用者の暮らしぶりを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・電話の際及び運営会議への参加や行事への参加を呼びかけるなど家族等が気軽に意見を言ってもらったり、相談してもらえたりできるような関係づくりのための声かけを日常的にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が交代する際には1ヶ月の申し継ぎ期間を設定し、利用者へのケアに支障を来たさないような体制をとっている。また、離職を最小限に抑えるために研修の機会の確保や資格取得への支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設独自の介護に関する能力確認表を開発し、指導者と職員がそれぞれ評価しながら向上する指導体制を整備し、職員1人1人のスキルアップに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人や他法人との勉強会や交流研修などを行い、職員が常に見識を高めるための研修会への参加を呼びかけている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望される利用者・家族に対しては、事業所見学や必要時は自宅訪問などを行うとともに、入居が決まった際には、短期間で職員との信頼関係をつくり安心感をもってもらうために、センター方式を導入し入居前の生活・医療・人間関係などの情報を家族から提供していただきケアに反映している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の「何か役立つことをしたい」という思いを尊重し、調理・食事の用意や後始末、掃除、洗濯物たたみなどできることを日課に組み入れてして頂き、そのことに対する感謝の言葉をかけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	誕生日には好物を作り、買い物・散歩・温泉旅行などを計画するなど利用者の希望や意向を聞きながら、日々の暮らしに満足感をもってもらえるように工夫している。また毎月の介護計画書の送付時には家族の希望や意向を把握しケアに反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時にはセンター方式を導入し、家族の協力を得ながらこれまでの暮らしに関する情報を収集し介護計画に活かしている。また日々の関わりで把握した情報はアセスメントに活かしている。さらにカンファレンスでチームとして検討の場をもち介護支援専門員と担当者を中心に介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の状況が変化した場合は介護支援専門員が中心となり、タイムリーに介護計画書の見直し、現状に即した計画を作成している。また毎月モニタリングを行いその結果を家族に送付している。その際に家族の要望も聞き介護計画書に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師による健康観察や主治医との連携による健康管理体制を整えている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による往診体制を導入している。協力医療機関や専門医受診には必要時職員が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化や終末期に対する事業所の方針「医療連携体制指針」を作成している。入居時家族に説明し同意を得ている。さらに状態変化時は利用者・家族の希望や意向を把握しつつ対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声掛けはさりげなく行い、プライバシーへの配慮をしたケアをしている。面会簿も個々に記録し、一人ひとりにまとめられ他の家族の目に触れないよう配慮されている。また、家族へ発信している事業所便りも個人名は載せないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の一日のおおまかな流れはあるが、入浴・外出・行事への参加など、個々のペースや体調に合わせ、それに添い日課が組まれ支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が調理や配膳、盛り付けなど率先してされており、一人ひとりが自分のできることを協力して行っている。食事の前に嚥下障害防止のごっくん体操をし、全員揃って「いただきます」「ごちそうさま」をし、和やかな雰囲気です。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めず希望すればいつでも入浴が可能である。入浴拒否の方も体調やタイミングをみながら週2回を目標に支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に出来ること、したいことの把握に努め、掃除、洗濯ものを干すこと、たたむなどして貰い感謝の言葉をかけ役割があることで生活に張りを持つことに繋げている。花や野菜を植え収穫を楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は近所の公園に散歩に出掛けたり、YOSAKOIソーラン祭りの時期は全員で踊りを見物に行く、季節のイベント、誕生会は希望に添った外食に出掛ける等の、その時々希望に応じた柔軟な対応で、外出支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間や台所から玄関への視線が届く事で鍵を掛けないケアを実施している。夜間のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行い、利用者全員で防災センターに行き災害に備え全員で体験を行っている。地域の方にも運営推進会議の折に協力をお願いしている。	○印 (取り組みを期待したい項目)	夜間の防災訓練を毎年実施していない状況がある。今後、夜間に災害が発生した場合の対応に備えるために夜間の防災訓練を毎年実施される様期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立とカロリー計算がされ、個々の体調に応じ普通食、ミキサー食とバランスが考慮されている。水分も一日を通して摂取できるよう支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は窓を大きく取り明るく、レースのカーテンを通しやさしい日差しになっている。床は段差が無く、スムーズな足運びができる。食事の後好きな場所を確保し、テレビを見たり、おしゃべりしたり、和やかに暮らされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ち込まれた家具、写真、仏壇など馴染みの品々に囲まれ、利用者がゆっくり落ち着いた暮らしができるように配慮をした空間になっている。		

※  は、重点項目。